

# 講義の風景

総合政策学部

平野晋 教授

Hirano Susumu

法と経済学

[火曜6限/1—3年生対象]

元ドコモ法務室長

教授の「こんばんは」という挨拶から始まった。「こんばんは」「こんばんは」……学生のほうからも返事があって、驚いた。「授業の初めはみんなでご挨拶」。小学校以来な気がして。といっても大学生の返事は低音で可愛くはないのだが。

11月終盤の6限、晩秋の太陽はツルべ落として外はもう暗い。114

20教室は6割方埋まっている。

暖色系のストライプシャツに黒のジャケット。胸にはハンカチーフがチラリとのぞく。大手予備校の人気講師、のような雰囲気、といったら叱られるだろうか。

元NTTドコモ法務室長。国内外の国内の企業法務の実際と実態を知り尽くしたプロの、母校教授への転身

## プロ体験生かしてビビッドに

### ドコモから転身した母校の教壇

は2年前だった。

0年NTTドコモ法務室長となる。0年から、中央大学教授に

#### 〈共有地の悲劇〉

この日は、後期8回目の講義。「今回は、「共有地の悲劇」を、前回説明した内部化と外部化の話に関連して……」と始まった。口調はやわらかいけど難しそうでもある。

市場の失敗とは、「外部化」によって生じる、という。取引が合意に基づいて行われ最適な資源の配分がないといえるが、逆に望ましくないときには、そこに「外部費用」が生じている場合がある。「社会費用と

東京都生まれ。中央大学法学部法律学科卒業後、富士重工業に入社、国際法務を担当。企業派遣米国留学生としてコーネル大学大学院で学び、ニューヨーク州法曹資格を取得。法律事務所での実務経験などを経て、95年からNTTインターナショナル・法務担当（後のNTTコミュニケーション・システムズ法務考査部）、200

なぜなら、公害の費用を入れていないから。安く生産できて、たくさん生産できるのが最適、というように

なってしまうのはおかしいことなんです。本当は公害の費用も取り込んで、より高い値段で製品を売る必要があるんです」。「なぜなら」を多用して、わかりやすく説明する。「きちんと外部費用を内部化した状態、つまり同意を得てないで外におつづけた費用を、自分の費用として責任を認め外部費用を「内部化」した状態が、本当に最適な価格であるんです」。リズムカルな口調で、トントント話す。そして「ココまでが前回の内容です」——前回欠席した学生にも、転校生気分の記事にもありがたい。

#### 例えば、迷惑メールの裏側

その論理があてはまる有名な逸話が「共有地の悲劇」だそう。資料が配られた。「4年前になりますが、私がNTTドコモの法務室長をしていたときに総務省から頼まれて講演会をした概要の一部です」。なぜNTTドコモと「共有地の悲劇」が関連したのだろうか？ 「迷惑メール」という問題が、まさにこの理論で説明できる問題なのです。日本で



中身ぎっしり、立て板に水……

「これが全然理解されていなかった  
ので、理解してもらったための講演会  
でした」

「教授」から「ドコモ法務室長」  
の顔に切り替わる。ビビッドな話に  
なる。

「出会い系サイトの携帯広告は、  
当時社会問題にもなりましたがね、今  
もありませんけど」。うんうん、最近

は記者の祖母の携帯にもよく届く。  
なんでまた祖母に、不思議で仕方な  
かった。

迷惑メールはスパムといわれ、そ  
れを送る広告主、送信業者をスパ  
マーと呼ぶ。「スパムは、インター  
ネットを通して、アットランダム  
に送信されています。例えば、××  
×@docomone.jpの、@の前の部分

を無差別に、テキストに変えて。そ  
れがドコモなどの携帯通信事業社に  
送られ、そこで一致するアドレスが  
あるかどうかを全てサーバー・コン  
ピュータでチェックする。その結果、  
一致したものは受信者へ、しない  
ものはスパム側へ送り返すのです」。  
なるほど、だから70近い祖母の携帯  
にも出会い系メールが届いちゃうわ  
けだ。

郵便のダイレクトメールは、送信  
者側が切手で通信コストを負担する  
構造なので、なるべく無駄な発信を  
しない抑止力が自動的に機能する。  
発信者側がコスト負担を強いられ  
ているからこそ、受信しても効果の  
ないような人や受信を望まないと思  
われる人などへの無差別大量な発信  
をなるべく避けようとする。「例え  
ばコンタクト・レンズの広告は、視  
力の悪い人の家に送るとかする。私  
はコンタクト使わないんだけどね」。  
黒ぶちメガネがキラリ、という場面  
である。

これがケータイになると、受信者は、  
欲しくもないメールが届き、しかも

受信料を取られることに腹を立てる。  
「でも、実はイチバン負担を強いら  
れているのは携帯通信事業社なん  
です。大量に送られてくる迷惑メール  
をチェックして、宛先の一致しない  
ものは全て返さなくちゃならない。  
膨大なサーバー・コンピュータの容  
量を食べられてしまうんですよ」

知らない話だ。あまりに容量を食  
べるので、サーバー・コンピュータ  
の力が限界に達し、届くべき一般の  
メールが届かなくなってしまうにつ  
ながってしまおうという。「今はメー  
ルが遅れて届くなんて許されませ  
んからね」

### 内部化 外部化

なぜこんなことが起こるのだろう。  
「それは、送信料がバカ安いから。  
定額制・使い放題といったサービ  
スの出現によって、発信の際の1通当  
たりのコストが非常に安価になる。  
ADSLなんかの月々5000円と  
いうようなのがあるでしょ。これは  
月にどれだけ送っても通信料は変わ  
らない」。だから、あるかどうか分

からないアドレスに大量に送ることも経済的に可能になるのか。

「これを『Amatitz』の論文、Canning『Spams in Virginia』が説明しています」。教授が原文を読み上げて、訳す。声に抑揚があつて、流暢な英語。米国仕込みのジェスチャーまじり。

スパムは「料金後払い制のダイヤレクトメール」だ。私たちの通信料が使われ、また、届かない多くの量は携帯通信事業社が自腹で全部処理している。「意外と知られていないんですけどね。携帯通信事業者は、この宛先不明のメールを処理する負担に対して受信者からお金をとれるはずもなければ、ADSLなどのISPと契約を結んだ送信者へも請求できない。どこからお金をとれないんですよ」。苦労を経験した当事者である。苦い表情になる。ほとんどダダで送信可能な迷惑メールは、他人がそのコストを負担しなければならぬ。そして弾幕のように大量のメールが送られる結果、通信事業社と受信者の両方にコストがシフ

トされる」と論文には書かれている。

「スパマーは、こういうインターネットの特殊な経済構造に『タダ乗り』しているのです」。このタダ乗りは受信者側が、時間と通信料を奪われる。「つまり、この、コストの転嫁が、『外部化する』ということなんです」。ここで、はじめの「内部化・外部化」の話につながった。「迷惑メールというものがコストを外部化しているということにかんがみれば、この迷惑メールというのは、非常に古典的な共有地の悲劇を生じさせていると思われる、とアマデイツさんは指摘しています」と進む。

### 牧夫のメリット・デメリット

「共有地の悲劇」は、アメリカの他の多くの法律論文にも引用されている。「生物学者の論文がその起源なんです。それがおもしろい」。すなわち、生物学者、Hardinが自然科学系の雑誌に書いた論文。彼は、アダム・スミスが『国富論』のなかで説いた「神の見えざる手」に

警鐘を鳴らしている。そして、「共有地の悲劇」の例。誰にでも解放されている牧草地、これをcommons (commons) とする。

「牧夫が家畜をタダで育てることができる共有地を考えます。ここで、一人の牧夫がもう一匹自分の家畜を増やそうとするとき、どんなメリットとデメリットがあるでしょう」

増やした一頭分がまるごと利益になる。しかし共有地の草が少しだけ減ってしまう。「これを比較すれば、増やしたほうが得である、とその牧夫は考えますよね。しかし、共有地を利用する全ての牧夫が同じ判断をしたらどうでしょうか。一人ひとりの行動は合理的であるけれど、その結果、共有地で起こることはまさに悲劇。「破滅してしまいますよね。これは、最近のニュースにあつたマグロの減少にもあてはまる。限りがあるマグロをみんなが好き勝手に取りすぎるから、枯渇する。当然のことです。今のこのマグロ問題にあてはまる理論を、1968年にハーディンは指摘していた。当たり前

のことなんですけどね」。なるほど。たとえば上手い。マグロ、今のうちたくさん食べておこうって思つてた私は、悲劇を引き起こしている当事者なのか？

共有地の悲劇には、何らかの対策がある。ハーディンは説く。「私の講演会では法規制が必要だといつて迷惑メールに関する法規制を作つてもらつたのですが、実はもうちょっと対応策があるんです」

まずは、私有財産制のとり入れ。牧草地の例でいえば、牧草地を私有財産化する者がいれば、その者が土地を維持しようと努める。結果資源は残る。「マグロだつてそうですよ」。マグロをすべて日本のものにしてしまえば他の国へは渡らない。私有財産制では資源の減少はすべて所有者の負担となる。これが「内部化」といえる。「まあこれはひとつの方法で、いいか悪いかはいませんがね。次に、よくないと思いますけどね。次に、課税。「工場に対して環境税を取るとかね」。これも外部費用を「内部化するひとつの手段ということか。そ

して最後に、強行法。違反に対して制裁を課すことだ。

エピソード満載だ。こんどはテレビ番組から。

「僕の好きなテレビ番組に『The West Wing』っていうのがあるんです。日本語では『ザ・ホワイトハウス』。アメリカの大統領の話だ。サムという若いスピーチライターが登

場する。サムは以前法律事務所の優秀な弁護士だった。そのころ彼は、タンカーが環境を汚染する事故を起こしたとしても、その持ち主である企業が責任を逃れられるような契約書を作った。「その一流企業は、優秀なサムを使って契約書を作らせた」。

たとえタンカーが潰れて環境を汚染する事故を起こしても、資本金を減



らした会社を作って損害賠償を請求されたら潰れてしまえば、タンカーの本当の持ち主である企業に責任は追求されない。「僕が作った契約書だから（責任は問われなくて）あたりまえだ。だけどこんなことはおかしい」と言つて、サムは法律事務所を辞め大統領のスタッフになった。当事者に責任を取らせるような社会にしていかなければならない。「これもですね、つまらな

くなっちゃうかもしれないが……「法と経済学」的に言えば内部化させるべきなんです」。このようにさまざまな現象を「共有地の悲劇」は説明することができます。「非常に素晴らしいお話なんですよね」と満足気だ。

資料の説明はここまで。そのあと、「これも面白いんですね」と講義が展開していく。

最近サイバー法の世界で叫ばれているのは、「反共有地の悲劇」なのだそう。私有財産制をやりすぎるとかえって非効率な現象が起こるケースである。阪神淡路大震災での共有物権（マンション）の復興において、復興するには一定の賛成票が必要で、建て替えのできない状態が続いている。あまりにも細かく資源を分配・私有財産化しすぎた結果、全体としては最適な利用に向かつて同意が取れずにとどり着けない。北朝鮮が六カ国協議において日本がいらないほうが進むんだと主張した、あれだつてそう。「外交の条約の成立は、参加国が増えれば増えるほど同

意が取りにくいから、難しい」。いわゆる「取引費用」が増加するからだ。そして、「検索エンジンも同じ」。全世界のウェブサイトが私有財産化、つまり拒否権を持っていたら、検索エンジンは成立せずに利用者にとって不利益となってしまう。「反共有地の悲劇はまさにこういうことなのです」

例が多いから理解できる。教授の波長に、学生が乗せられ乗っかる雰囲気では授業は続いた。中身の詰まった1時間半である。

### 「理解できましたか」

「では、何か質問ありますか？」

なければ以上でお疲れさまでした」。記者にも「お疲れさまでした。理解できましたか？」と。ハイ、おかげさまでとてもよく理解できました。

教授は黒板を丁寧に消し、教室を去った。記者は教室を出ると、空腹感を覚えた。妙にお腹がカラッポ。アタマに栄養を吸い取られたせいかしら。

（学生記者 山崎綾香 法学部3年）